
秘密

Misho

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密

【Zマーク】

Z5760V

【作者名】

Misho

【あらすじ】

私は、信田安衣の目線で適当に書いた超まとまりのない女装兄貴との話。

(前書き)

ちょっとふざけたかったので適当に書いた話です。読んでください。
方は、適当に見流しておいてください。

「ちょっとー利昂兄！」
「なに？ 安衣」
「いい加減そのカツコやめてって言つてゐるじゃないー。」
「え？ 何のこと？」
私、信田安衣は、兄の信田利昂にあることを説得中
「何のことって…女装よーしかもロリータ！」
そう。あることとは兄の女装をやめさせること
さらに普通の服ならまだしも、まさかのロリ服。あのフリフリヒラ
ヒラの。
「いいじゃんか。 可愛いんだから…」
「いくないっつ！」
「あ、そうか安衣、ボクの女装が似合はずきてるからやきもちや
てるんだー！」
「ちつがーーうつつーーもう利昂兄なんか知らないっつ
「いいよー別に 自己満だし？外に行けばみんなかわいって言つ
てくれるし？」
「うう…ホントに知らないんだからー。」
そう言つて利昂兄の部屋を出たものの…
廊下には姉の翔萌とよみが…
「安衣、どうした？ そんな顔して…」
「ともえねえ…」
なぜか急に涙があふれ出す。
「ちょ…つー利昂！ また安衣泣かせてー…」
翔萌姉が利昂兄の部屋に殴り込み（笑）に行つた。
なぜだか翔萌姉は利昂兄より私を可愛がつてくれる。
そして、部屋からはこんな会話が…
「だつて、安衣が女装否定するから…」

「そりやあたりまえでしょ！自分の兄が口裡で女装してたら普通嫌でしょ！」

「でも翔萌姉のことは何にも言わないじゃん…」

「うう…でも、これはただの服でしょ？あなたは口裡じゃん…せめて一般的な服にしなさい…」

「えー…無理！口裡可愛いから…」

「はあ…まったく、あんたと言こあつのは張り合ひがないわ…。邪魔して悪かったわね…」

皆さん、お気づきでしょうか。翔萌姉が途中で詰まつたのを…理由はとつと…翔萌姉は男装癖があるんです。なんでも、男装の方が似合つと…

それは私も同意の上で。

でも、利昂兄は違いますよー同意なんかしてません。

しかも、利昂兄の素顔は…

「…安衣？さつきほゴメンね？女装解いたからひつかひ来て…？」

女装をやめると…

「お兄ちゃんヅツ…」

お約束のようにマジイケメンです。

「まったく…安衣はどうして男に戻るとお兄ちゃんつて呼ぶの？」

「メリハリ！」

「なんか違うね…？」

「あつてるつてことにじておいて…」

「まったく…2人とも…母さんと父さんにバレないようにな…」

『はい』

翔萌姉から言われ、部屋の戸を開める…

「さて、安衣？」

「何？お兄ちゃん」

「こん時だけでいいから『利昂』って呼んで…」

『り…あ？』

「よくできました」

私たちは、これまたお約束のように恋人同士なのだ…（叶わぬ恋愛
ともいうが）

「」褒美は？」「

「…欲しいの？」

真剣な目で見つめられるととてもドキドキするが…

：Chu

ちゃんと「」褒美はもらひのです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5760v/>

秘密

2011年10月8日18時09分発行